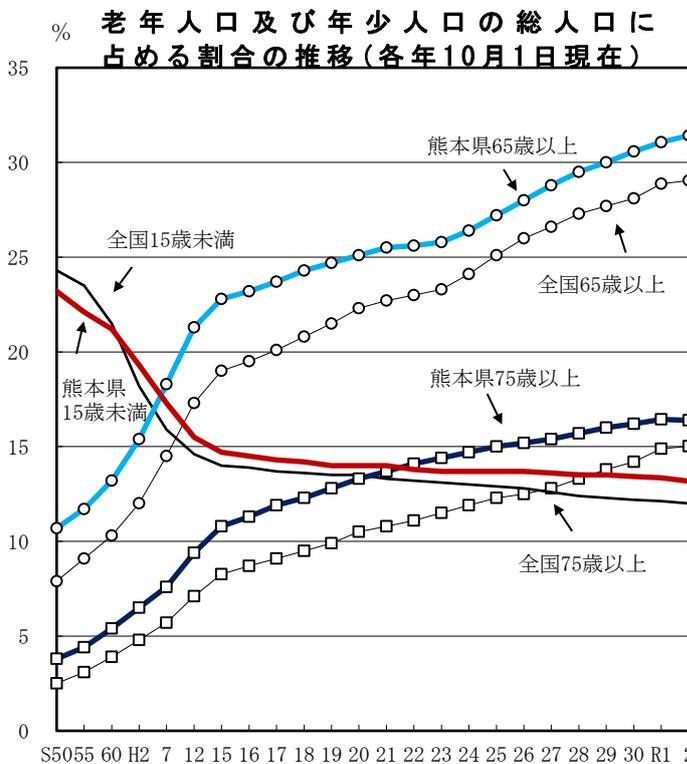
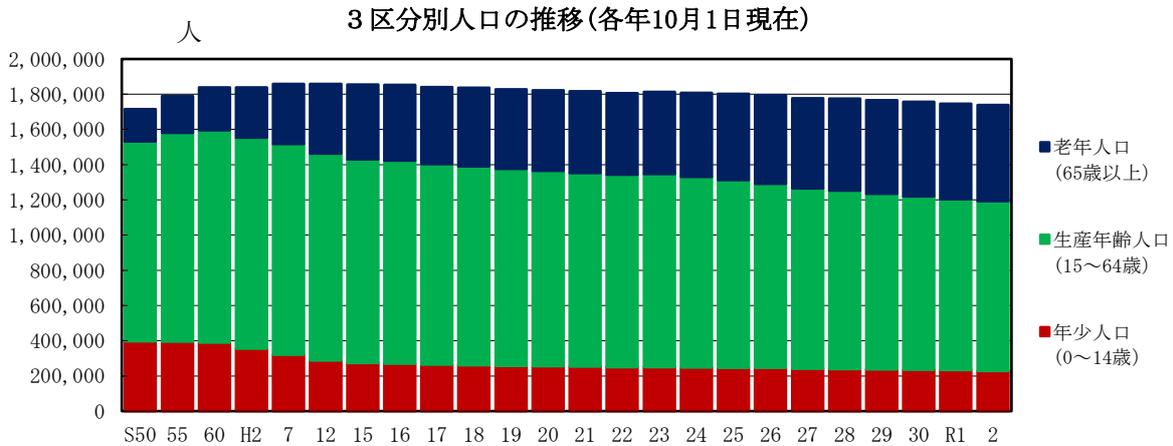


第1章 人口

(1) 年少人口、生産年齢人口が減少し、老年人口のみ増加

本県の人口は、平成14年から減少傾向であり、前年より8,439人減少した。
 人口の推移を年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）の3区分別にみると、年少人口は昭和50年の57.6%にまで減少している。
 令和2年は、年少人口が229,016人、生産年齢人口が963,053人、老年人口が546,232人であり、老年人口が年少人口を317,216人上回った。また、老年人口は昨年より3,682人増加し、昭和50年からの45年間で2.99倍となっている。

（資料） 国勢調査実施年(S50～H7, H12, H17, H22, H27, R02)は総務省統計局「国勢調査」
 その他の年は県統計調査課「熊本県推計人口調査」

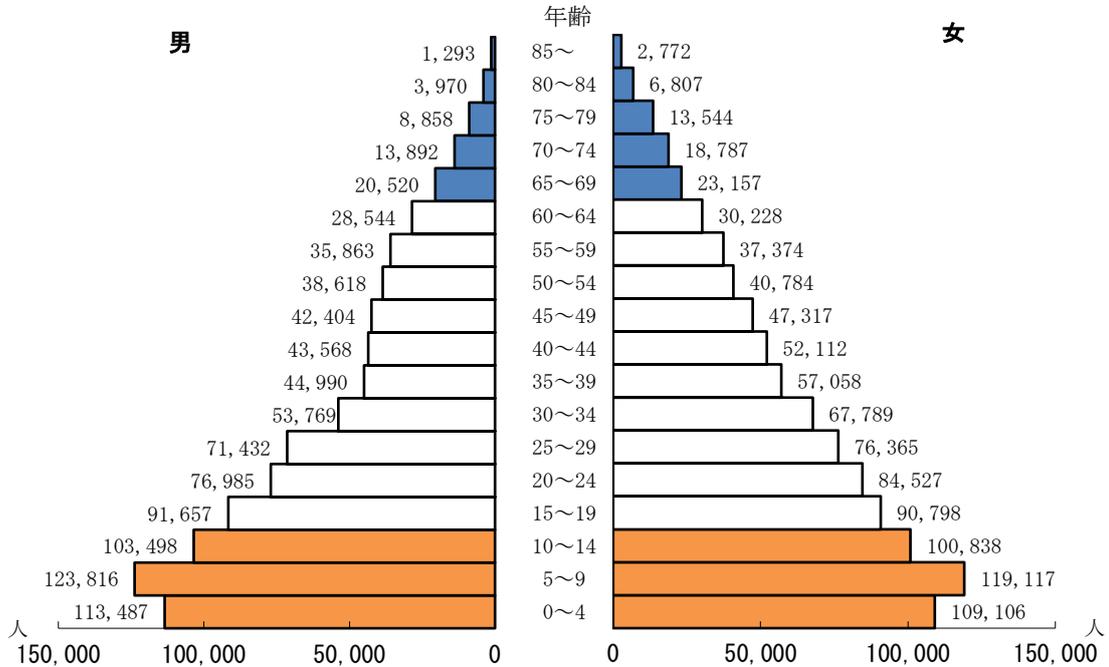


本県の老年人口（65歳以上）の全人口に占める割合は年々上昇し、令和2年には31.4%となった。（全国29.0%）
 また、75歳以上の人口も本県16.4%、全国15.0%であり、1.4ポイントの差がある。本県は全国より早く高齢化が進んでいるのがわかる。
 一方、年少人口（15歳未満）の割合は、昨年より0.2ポイント減少し、令和2年は13.2%（全国12.0%）となった。

資料） 総務省統計局「国勢調査」及び県統計調査課「熊本県の人口」

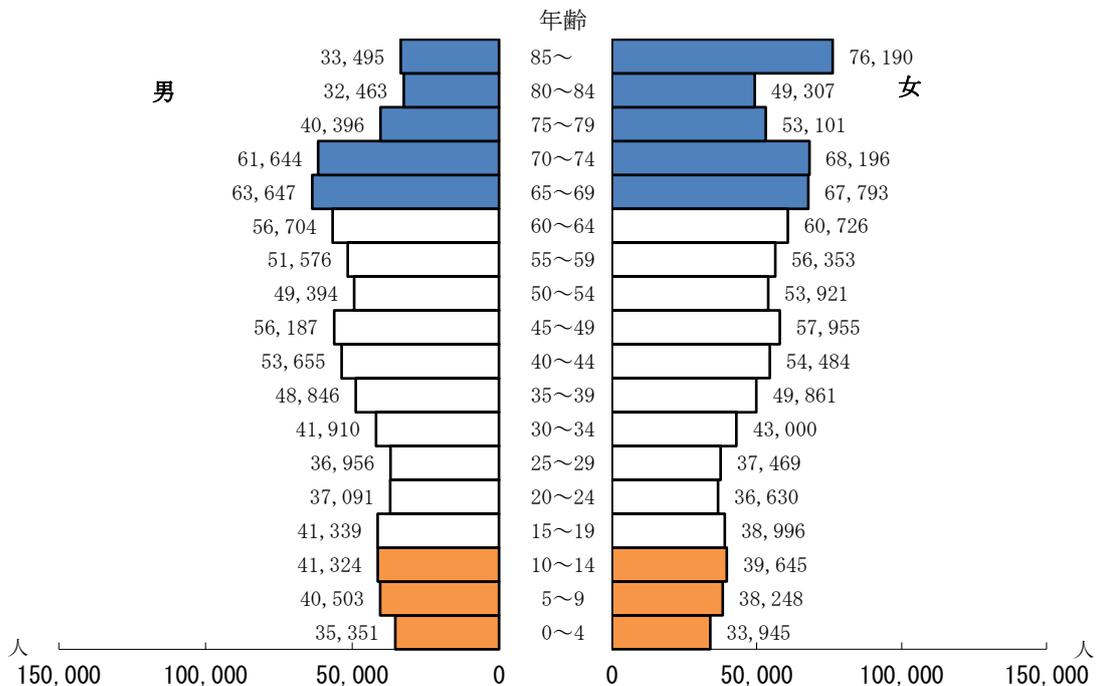
本県の年齢構造を人口ピラミッドの形態で見ると、昭和30年は若い年齢ほど人口が多く裾野の広い「富士山型」であったが、令和2年は、男が65～69歳代が最も多く、女が70～74歳代が最も多く「つぼ型」に近い形となっている。（但し、85歳以上を除く）

昭和30年人口ピラミッド（熊本県）



資料) 総務庁統計局「昭和30年国勢調査」

令和2年人口ピラミッド（熊本県）

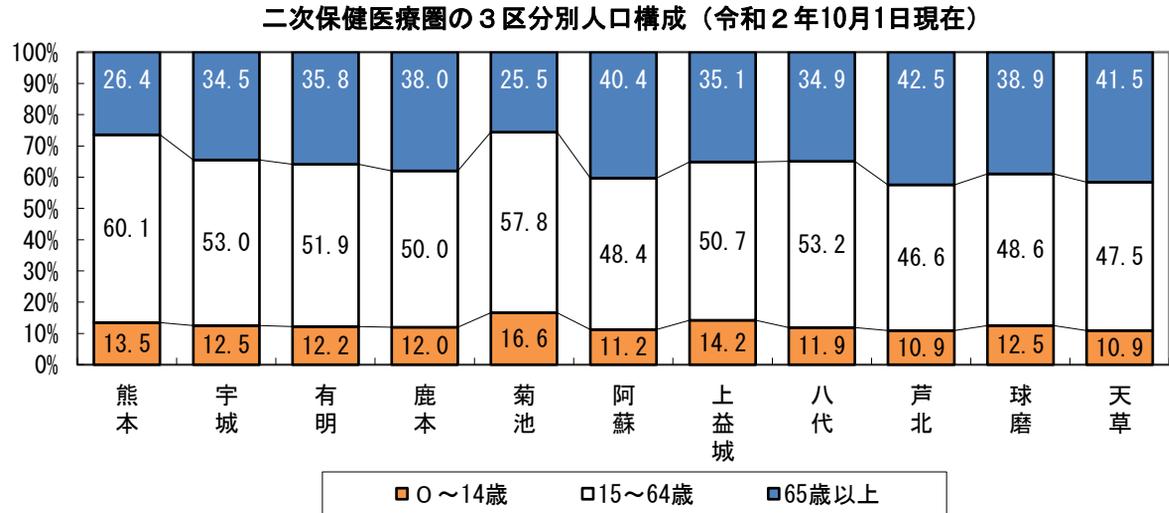


資料) 県統計調査課「熊本県推計人口調査」(令和2年)

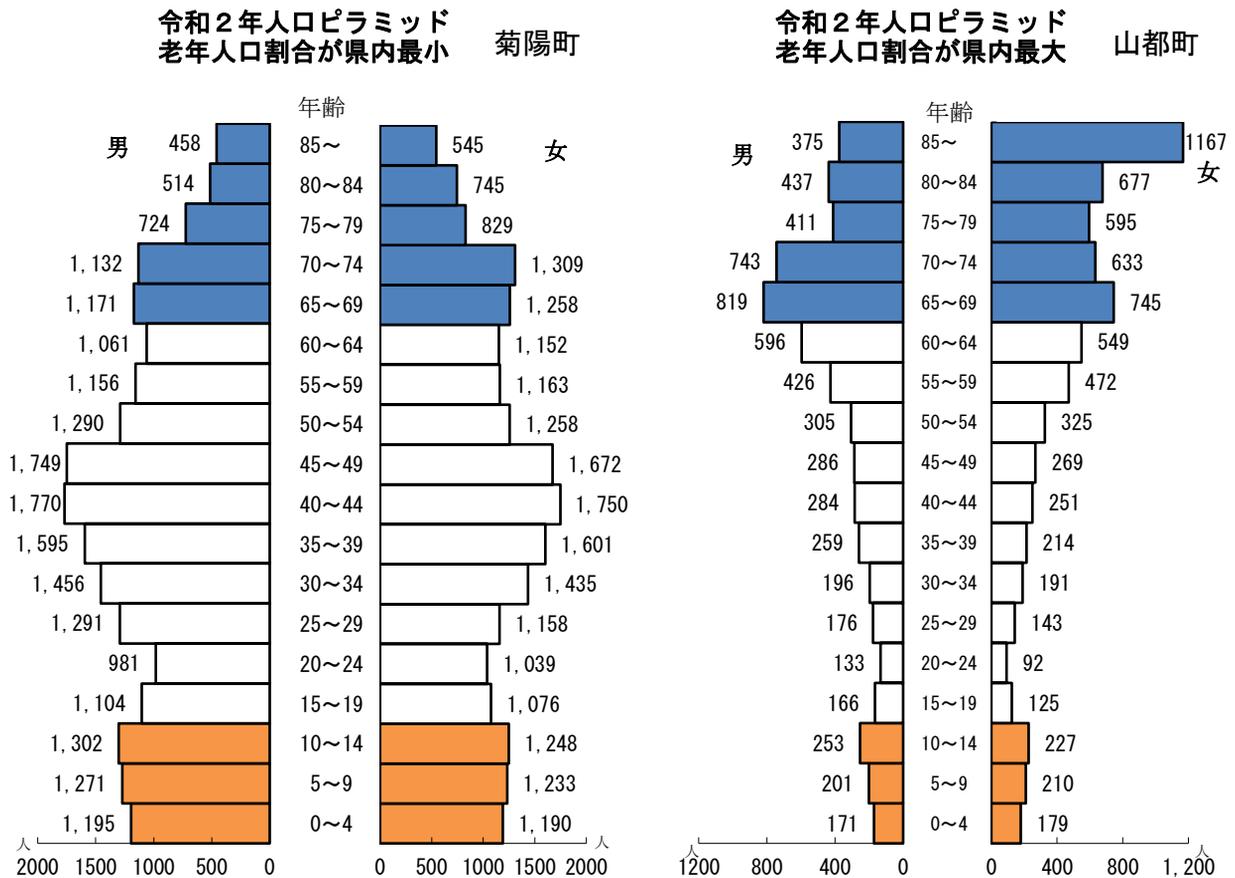
(2) 3区分別人口割合は地域間でばらつき

二次保健医療圏別に3区分別人口割合をみると、老年人口（65歳以上）の割合が30%を超えているのは、熊本市、菊池以外の9保健医療圏である。一方で、菊池圏域は25.5%で最小となっている。

市町村別にみると、老年人口割合が最も大きい山都町が50.4%、最も小さい菊陽町が21.1%となっている。

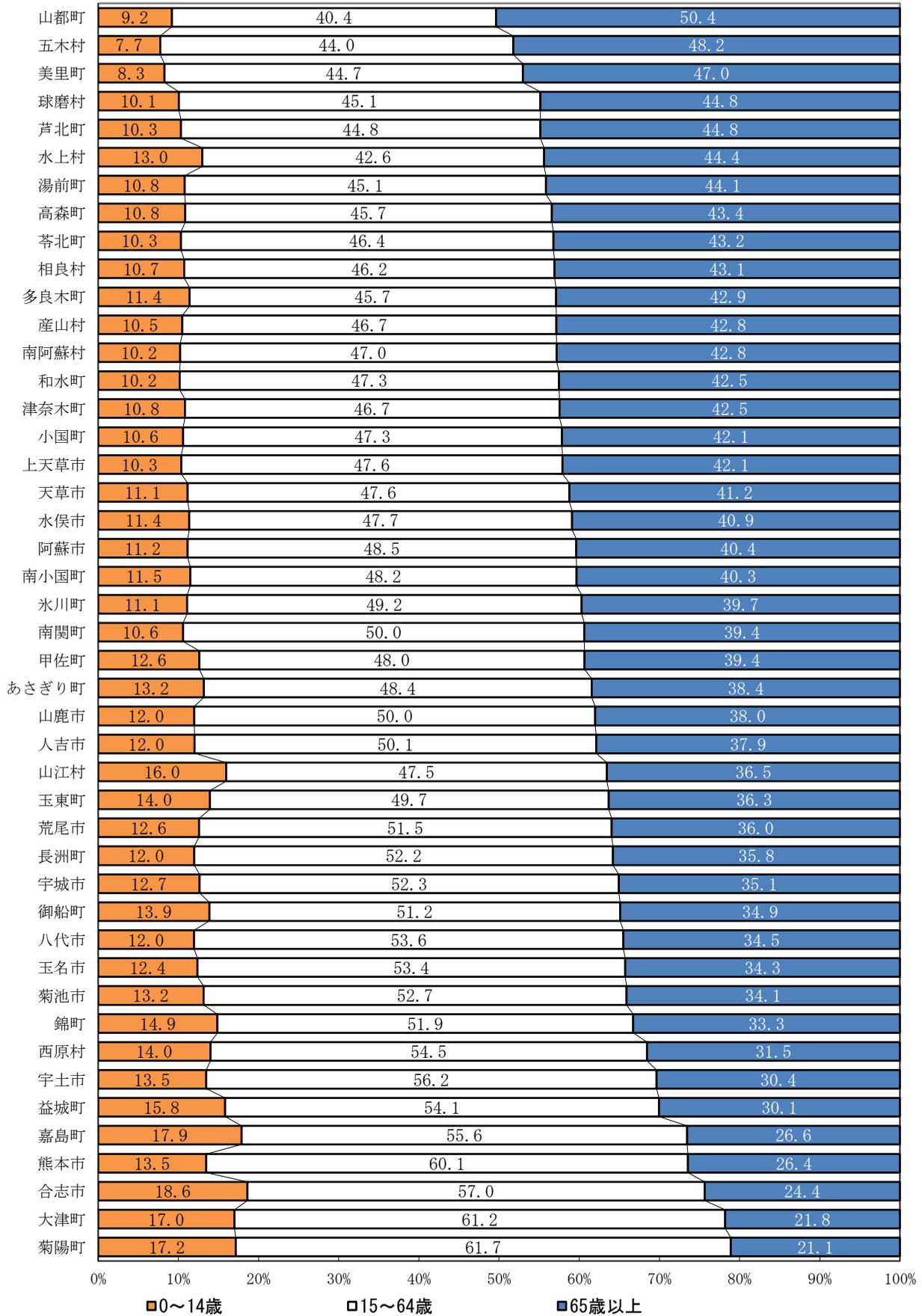


資料) 県統計調査課「熊本県推計人口調査」(令和2年)



資料) 県統計調査課「熊本県推計人口調査」(令和2年)

年齢3区分別人口割合－市町村別－
老年人口割合が大きい順



資料) 県統計調査課「熊本県推計人口調査」(令和2年)